

【教育講演】

神経・筋原性側彎の治療におけるピットフォール

滋賀県立小児保健医療センター 診療局長・整形外科主任部長  
二見 徹

神経筋疾患による側彎症の治療は思春期の特発性側彎症と比較すると、はるかに難しい。発症年齢がより若年であることが多く、また、進行のスピードが速くカーブの増悪のコントロールがうまくいかないことも多い。通常の装具治療を行うと胸郭運動を妨げたり、腹部消化器への圧迫をきたすこともある。一方、手術を行う際も合併症の率が有意に高い。本口演では麻痺性側彎の治療（保存・手術）上の問題点や **pitfall** を中心に述べる。

